

◆ 東京都主税局長賞 ◆

「税金と日常」

東村山市立東村山第二中学校3年 鳥塚 美優

私は水泳を習っており、週に何度もプールで練習に励んでいます。所属クラブ以外で自主練をするときには、近くの温水プールで泳ぎます。その温水プールは市内のごみ処理施設と繋がっていて、燃やす際に出た熱を使用して作られています。一年中温かく、一定の水温、室温で楽しむことができます。そこで私は環境と税金の関わりについて調べてみることにしました。その中でも、ごみ処理施設に着目して考えました。

きれいなまちづくりのために家庭や会社、公共施設などから出るごみの回収と処理には多くのお金がかかっています。ごみ処理費用に税金が年間に二兆二千五百六十億円使われており、これを年間一人あたりで見ると、一万八千八百円となります。毎日出るごみを捨てる、そんな当たり前の日常にそこまで莫大なお金がかかっていること、さらにそれが税金で賄われていることについて私は何も知らず、本当に驚きました。

加えて、私たちが毎日きれいな街で生活できていることに感謝しなければなりません。そして、ごみ処理にかかる多額な大金をどうにか減らすことはできないか。限りある税金をごみ処理ではなく、教育や高齢者支援、交通道路の整備などの有意義なことに使うことができたなら、もっと良い日本をつくることができるのではないだろうか。これらのことを解決するために、リサイクル、リユースが重要になっていきます。例えば、マクドナルドやユニクロなど大手企業では使わなくなったおもちゃや洋服を回収して別の新しいものを作っているということは、よく耳にする話です。また、フリーマーケットやバザー、近所の知り合いの人にあげるなどをし、使わなくなったものをそれを必要としている人の手に渡るようにすることが大切です。しかし、それでもごみは毎日出てしまいます。そこでごみを減らすためにはどのようにすればよいだろうか。食料を使い切れるだけ購入することやレジ袋はもらわずにマイバックを使うなど方法はたくさんあるはずです。そして一人一人がこのようなことを意識して生活することは、持続可能な開発目標・SDGsにも関わっていると考えられます。私たちがごみの削減について少しでも目を向けていくことは税金や環境の観点から多くの利点があります。

税金と聞くと真っ先に浮かぶことは「負担が大きい」ということではないでしょうか。それでも、税金とは私たちにとって欠かせないもので、なくすことはできません。しかし私たちの些細な努力で減らすことは可能になるかもしれません。ごみの量を減らすことでごみを燃やす

焼却炉の費用が減り、ごみを分別することで人件費を減らすことができます。ごみだけでなく、無駄なく丁寧な暮らしを心がけて生活することができたなら、もっと良い税金の使い方が見つけられると思います。